

次世代に誇れるまちづくりに向けて

令和8年3月議会が2月20日～3月19日に開かれ、令和8年度予算などが審議されました。同議会の冒頭で小泉市長が語った施政方針の概要をお知らせします。



施政方針演説をする小泉市長

上空から見た成田駅周辺

本年は、私が平成19年1月に市長に就任してから20年目となります。5期目の総仕上げの年と目立っています。5期目の市長選挙において掲げた「つなぐ未来へ進化するまちづくり」のスローガンのもと、本市の輝かしい未来を見据えつつ、次世代に誇れるまちづくりに向けて、引き続き全力で取り組んでまいります。

さて、開港以来、騒音地域の皆様をはじめさまざまな方々のご理解とご尽力のもと、発展してまいりました成田空港であり、昨年5月には滑走路の増設に向けた本格的な工事が始まり、6月には「エアポートシティ」構想が四者協議会において合意されるとともに、新たに「成田空港第2の開港プロジェクト」が打ち出されるなど、まさに「第2の開港」ともいえる大きな変革期を迎えております。

こうした中、本市にとりましても、均衡ある発展を目指す絶好の機会であると捉えており、人口増の受け皿となる開発や社会資本整備、雇用拡大のための企業誘致など、空港立地のポテンシャルを最大限に生かしたまちづくりを、関係機関と連携しながら積極的に推し進めてまいります。

また、今後の超高齢社会や少子化の進行に伴い、労働力人口

が減少することが見込まれており、こうした状況においても、社会情勢の変化や複雑・多様化する市民ニーズに的確に対応していくためには、より一層、行政改革を推進し、効率的かつ効果的な市民サービスを提供していく必要があります。

本市が将来にわたり持続的に発展していくため、全ての子どもが幸福に生活を送ることができる「こどもまんなか社会」やお互いを思いやりかつ尊重し、多様性を認め支え合う共生社会の実現に積極的に取り組むとともに、医療、福祉、防災、減災対策のさらなる充実、脱炭素社会の実現やDXの推進など、社会的要請の高い行政課題にも的確に対応し、市民の皆様にご共感していただけるまちづくりに向け、スピード感を持って各種

策に取り組んでまいります。

令和8年度の予算の編成においては、市民サービスの質・量の一層の向上と、財政負担の最適化を図りました。

一般会計では、対前年度比1・1パーセント増の712億円、特別会計および地方公営企業会計を加えた全体予算においても、2・4パーセント増の約1,074億円で、ともに過去最大規模の予算を編成いたしました。

主要な施策への取り組み

現在、成田空港は更なる機能強化などにより、まさに「第2の開港」ともいえる大きな変革期を迎えております。1月には、



変革期を迎えている成田空港

成田空港を核とする「エアポートシティ」の正式名称が、「SORA TOWN」に決定したことが発表されました。空港と周辺地域との一体的な発展を目指す「SORA TOWN エアポートシティ」構想の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

本市では、その取り組みの重要性を鑑み、4月から行政組織を見直し、国家戦略特区推進課の名称を特区・エアポートシティ推進課に改め、関係機関との連絡調整などを行う対外的な窓口としての役割を担うことで、本市における推進体制の強化を図ってまいります。

次に、企業立地の推進については、圏央道、北千葉道路などの整備が進展しており、特に圏央道においては、令和8年度に県内最後の未開通区間である大栄ジャンクション・松尾横芝インターチェンジ間が開通するとともに、既に供用している大栄ジャンクション以北の4車線化も完成し、広域交通ネットワークが拡充いたします。

こうした中、空港周辺地域の産業用地におけるインフラ整備の重要性を踏まえ、千葉県補

助金を活用し、空港周辺地域における地下水の利用可能量調査を実施するなど、積極的な対応を進めてまいります。

さらに、誘致奨励金などの企業立地促進制度については、より企業ニーズに即した内容に拡充し、物流・産業機能の集積や産業用地の整備を支援し、多くの企業に進出していただけるよう取り組んでまいります。

次に、都市基盤の整備については、不動産岡土地画整理事業が、令和9年度からの使用収益開始を目指して進められています。また、吉倉・久米野地区や東和田南部地区においても、土地画整理事業の事業化を目指し、関係機関との協議をはじめとしたさまざまな検討を進めており、両地区の取り組みを積極的に支援するとともに、両地区と東関東自動車道を連結するインターチェンジの設置に向けた取り組みを進めてまいります。

次に、成田ニュータウンについては、中心部に位置する赤坂センター地区において、成田ニュータウンの再生を見据えた多機能な複合施設を整備するため、導入する機能の整備方針やその規模など、今後の施設整備

に向けた具体的な方向性を定める基本計画の策定に着手いたします。

また、成田湯川駅周辺におきましても、駅北側の市街化区域への編入も視野に入れ、成田湯川駅周辺の土地利用方針の検討に着手し、本地域の活性化を図ってまいります。

次に、ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みについては、脱炭素社会づくりを推進するための基盤として基金を設置し、東京ガス株式会社との包括連携協定に基づき、八富成田斎場にカーボンオフセット都市ガスを導入することによりガス由来の二酸化炭素排出量を実質ゼロとするほか、官民、民の連携を促し、脱炭素社会づくりに向けた「オール成田」での取り組みの推進を図るなど、2050年におけるゼロカーボンシティの実現を目指してまいります。

次に、こども施策については、子どもや若者の意見を市の施策に反映することを目的に、高校生や大学生などにより組織された「こども未来政策委員会」から提案いただいた4つの事業について、提案内容に沿って事業

を実施してまいります。

また、ひとり親家庭や低所得子育て世帯などへの支援については、大学などへの入学試験を受験する際の受験料および模擬試験受験料の助成を行います。さらに、平日の夕方から夜間または休日において、子どもを一時的に預けることができる「トワイライトステイ事業」を開始し、子どもが安全に過ごせる居場所の提供に努めてまいります。

次に、学校給食については、

国において、4月から公立小学校の給食費を公費支援する方針を決定したことから、本市においても、公立小学校の給食費を全て無料にするとともに、本市独自の取り組みとして、公立中学校の給食費も全て無料とし、



市に事業を提案するこども未来政策委員会のメンバー

市立の小中・義務教育学校に通う全児童生徒について給食費の完全無料化を実施いたします。

また、中学校の部活動については、4月から休日の全ての部活動において、受益者負担による地域でのクラブ活動を開始いたします。学校と地域が連携しながら、子どもたちが安全・安心に質の高いスポーツ・文化芸術活動に取り組める場を確保してまいります。

次に、スポーツの振興については、7月には、世界の国々や地域から青少年少女が参加し、野球を通じた交流を行う世界少年野球大会成田大会を開催するとともに、8月の全日本女子硬式クラブ野球選手権大会や、11月の女子バスケットボール日本リーグ成田大会の誘致など、本市の特性や地域資源を生かしたスポーツツーリズムを推進してまいります。

安全・安心でうるおいの ある生活環境をつくる

防災対策については、防災DX推進の一環として、被災者支援システムを導入いたします。また、交通安全対策については、自転車乗車用ヘルメットの

購入費用の一部を補助することにより、ヘルメットの着用を促進し、交通事故による被害の軽減および交通安全意識の向上を図ってまいります。

防犯対策については、街頭防犯カメラの設置拡充を進めるとともに既設のカメラの更新をするなど、実効性のある防犯対策に取り組んでまいります。

消防体制については、高規格救急自動車および、はしご付き消防自動車を更新するなど、消防救急体制の一層の充実強化を図るとともに、消防団については、軽四輪駆動の小型動力ポンプ付き積載車を初めて導入し、機動性を高めることでさらなる地域防災力の向上に努めてまいります。



消防団女性部が講師を務める救命講習

空港周辺地域の振興策については、騒音地域の皆様のご意見を丁寧に向いながら、地域振興策の具現化に向けてスピード感を持って取り組んでまいります。

環境施策については、環境施策の指針を示す次期「環境基本計画」の策定に着手いたします。

また、新清掃工場関連付帯施設の整備については、用地の造成工事などを進めるとともに、PFI事業として実施することとした余熱利用施設の整備・運営では、選定された事業者による民間のノウハウを活用しながら、令和11年度中の供用開始に向けて、事業を推進してまいります。

健康で笑顔あふれ、共に 支え合う社会をつくる

こども施策については、昨年12月に導入した母子手帳アプリ「なりびよダイアリー」において、令和8年度からは、アプリ上で妊娠届の申請が可能となる

ほか、母子健康手帳の交付予約や各種母子保健サービスの予約に対応するとともに、赤ちゃん相談や乳幼児健診時における問診票の入力を行えるようにする

など、妊娠・出産期から子育て期まで幅広く活用できるよう利便性の向上を図ってまいります。

また、保育園給食費のうち3歳以上児の主食費については、本市独自の取り組みとして、公立保育園においては全額の公費負担を行うとともに、私立保育園などにおいては経費の補助を行っておりますが、食材費の高騰に対応するため、4月から補助上限額の引き上げを行い、保育園などの健全な運営を支援するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図ってまいります。

保健福祉施策については、保健福祉関連施策を総合的かつ計画的に進めるため、令和9年度から14年度を計画期間とする次期「総合保健福祉計画」を策定し、併せて令和9年度から11年度を計画期間とする「第8期障がい福祉計画」および「第10期介護保険事業計画」を策定いたします。

介護保険事業については、地域において住民主体の生活支援サービスを提供する団体への補助制度を新たに構築し、地域包括ケアシステムの充実を図ってまいります。

保健衛生については、生後6



介護予防や健康の保持増進に

国際医療福祉大学については、大学病院に隣接して成田薬学部の新校舎が完成し、地域の活性化と地域医療の充実が見込まれております。引き続き、大学との連携事業を推進するとともに、本市の医療環境の充実を図ってまいります。

地域文化を生かし、未来を 担う心豊かな人材を育む

教育振興については、令和8年度を初年度とする「教育振興基本計画」に基づき、未来を切

り拓く力をもった子どもたちの育成と、ウェルビーイングの向上を図り、誰もが自分らしく学べ、共に活躍できるまちの実現に向け取り組んでまいります。

学校施設の整備については、施設の老朽化が進む成田小学校の新校舎の建設工事に着手いたします。

文化財の保護や活用については、歴史遺産を「守り、伝え、知り、活かす」ための「文化財保存活用地域計画」を策定いたします。

文化芸術の振興については、地域の文化資源を活用した新たな芸術を創出し、地域経済の一層の活性化を図るため、千葉県印西市、栄町と連携して芸術祭を開催いたします。

空港の機能を最大限に生かす、魅力的な活気あふれる都市をつくる

本市のまちづくりの基本方針

である「都市計画マスタープラン」について、令和10年度からおおむね10年後の将来を展望した計画への改定に向け、令和8年度から着手いたします。

また、空港内で働く人材の確保への取り組みとして、成田空港で働く若者が大学などの就学時に貸与を受けた奨学金の返済について、企業とともに支援する制度を令和8年度から開始いたします。

公共交通については、グリーンスローモビリティなどの新技術や、公共ライドシェアなどの新たな交通施策の導入可能性についても調査・検討を行うなど、本市のまちづくりの将来像を見据え、地域の実情に応じた持続可能な交通体系の構築に向けた取り組みを一層強化してまいります。

成田空港の更なる機能強化に伴う航空機の発着回数の増加などにより、騒音地域の生活環境にも大きな影響が生じることが見込まれることから、関係機関と協力しながら防音工事の推進に取り組みするなど、スピード感を持って生活環境の保全に努め、未来を見据えた地域づくりに全力で取り組んでまいります。

活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

観光施策については、四季折々の魅力あるさまざまなイベントの開催に向け、関係団体と連携しながら支援を行い、まちのにぎわい創出を図ってまいります。

また、成田市観光キャラクター「うなりくん」や成田市御案内人十三代目市川團十郎白猿丈の知名度を活かし、さらなる観光客の誘致・成田ブランドの醸成に努めてまいります。



熱気に包まれる成田祇園祭

る農業機械の導入支援のための補助金については、補助対象要件を緩和し、より幅広い農業者に支援が届くようにしてまいります。さらに、本市で新たに就農する方に対し、経営確立を支援する資金の交付などを行ってまいります。

成田市場については、台湾において、日本産食品に対する輸入規制の撤廃が発表されたことから、さらなる輸出拡大が見込まれております。引き続き、市場の活性化および輸出の促進に取り組んでまいります。

市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

本市の総合的かつ計画的な行政運営を図るための指針である「総合計画」については、令和10年度を初年度とする新たな計画の策定に着手いたします。

デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進については、民間企業から、DXの推進に豊富な知見を有する人材の派遣支援を受けることで、積極的にDXの推進に取り組んでまいります。

窓口サービスにおいては、7

月から窓口受付時間および休日窓口サービスの見直しを行います。これらの見直しに当たっては、申請書の記入を不要とする「書かない窓口」や24時間対応可能な自動音声案内電話を導入するなど、さらなる市民の利便性向上と窓口の混雑緩和を図ってまいります。

持続可能な自治体運営については、クラウドファンディングなどの新たな増収策を積極的に検討し、財源の創出を図ってまいります。また、県の宿泊税への上乗せを含めた本市独自の宿泊税については、県と協議を重ねるとともに足並みをそろえ、早期の導入に向けて取り組んでまいります。

歴史を積み重ねてきた本市の豊かな自然、伝統や文化、産業などを、独自の地域資源として活用することで、我がふるさと成田を、これまで以上に輝かせるとともに「住んでよし働いてよし訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりという、将来都市像の実現を目指し、全身全霊を懸けて取り組んでまいります。